

祈りのきずな 12月

イザヤ書 7 章～37 章

豊橋教会（愛知） 牧師 小林 大記（こばやし ひろき）

1 日(月)イザヤ書 7 章 3～14 節

インマヌエル預言は、信じることによって開かれる救いの約束です。主が「しるしを求めよ」と語ると、アハズは「わたしは求めない。主を試すようなことはしない」と拒みます。謙虚に見えますが神の意思に反しています。神のご計画に信頼しましょう。「**落ち着いて、静かにしていなさい。恐れることはない**」（4 節 bc）。

鮫教会と遠藤守牧師（青森・八戸市）

2 日(火)イザヤ書 8 章 11～18 節

主以外のものを恐れたりおののくことがないように、との勧めがなされています。聖所が救いではなく「**つまずきの石**」「**妨げの岩**」「**仕掛け網**」となることを預言したイザヤは孤立したことでしょう。イザヤは神による裁きと希望を後の時代に託しました。封じられたことばが今のわたしたちに伝えられています。

八戸教会と甲谷裕子代務者（青森・八戸市）

3 日(水)イザヤ書 9 章 1～6 節

のちに産まれ来る方によって示される神の特徴が伝えられています。従来、「**驚くべき指導者**」「**力ある神**」「**永遠の父**」の称号は神についてのみ用いられ、「**平和の君**」は王に関して用いられ得る表現でした。常に死を意識し深い闇を歩む人びとの上に「**光が輝いた**」。万軍の主の熱意によって平和がもたらされます。

三沢教会と福田敦牧師（青森・三沢市）

4 日(木)イザヤ書10章12～22節

我欲に突き進み己の成果を誇る者への裁きと、主に寄り頼む者への幸いが伝えられています。民がいかにも多くても、主に頼る者だけが立ち帰る。アッシリアの王が生き活きと語っていますが、主はその王に語りかけていません。反対に、沈黙しているイスラエルの民に主は何度も語りかけています。

カルバリ教会とデヴィニー・ジェームス牧師（青森・上北郡六戸町）

5 日(金)イザヤ書11章6～9節

平和の具体的な姿が描写されています。強いものも弱いものも程度の差こそあれ「力」を持っており、両者が互いに配慮しあう必要を思います。敵意という隔てが完全に取り払われる平和の土台は「主を知る知識」です。知恵と力が平和のために用いられ、より広く平和が広げられてゆくことを願います。

青森教会と角本尚彦牧師、佐々木昭正協力牧師（青森・青森市）

6 日(土)イザヤ書12章1～6節

民らが慰めを受ける時が来る、という希望が伝えられています。このことがかえって1章から11章を読んできた人たちに、改めてこれまでの神の裁きを厳粛に受け止めること、そしてその先に神の救いがあることを伝えようとしているようにも思います。12章の一部は「マイムマイム」の歌詞の元となっています。

函館美原教会と福田雅祥牧師（北海道・函館市）

7 日(日)イザヤ書13章20～22節

13章から23章は、諸国民への災いの託宣が続きます。メディア人（17節）は好戦国人として知られ、建国に興味はなく、残ったのは荒廃です。行動や議論すること自体が目的となり、その先の目指すべきものがないおざりにならぬよう気をつけましょう。あなたにとっての礼拝や奉仕、話し合いの目的は何でしょうか。

函館教会と本多啓示牧師（北海道・函館市）

8日(月)イザヤ書14章10節

アッシリアは打ち破られ、便乗するペリシテも同じ道^{たど}を辿ります。バビロン王についてのあざけりの歌にて死んだ王らを登場させ、バビロン王を神によってさばかれた惨めな者としています。イエスを十字架につけた人びとのあざけりもまた、このような嘲笑^{ちやうしょう}をも含むものだったのではないでしょう。

苫小牧教会と桜井明代務者、福田雅祥助言者（北海道・苫小牧市）

9日(火)イザヤ書15章6節

一説によるとニムリムは緑の豊かなことで知られていた場所のようです。そのような場所すら徹底的に荒廃する様子が伝えられています。「草は枯れ、花はしぼむが／わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」（イザヤ40・8）のことは、他者への教訓も自分のこととして受け止める人への希望かもしれません。

室蘭教会と吉田尚志牧師（北海道・室蘭市）

10日(水)イザヤ書16章5節

モアブの滅亡の続きです。1～4節 α が助けを求めるモアブの声だとすると、6節での非難の意味が見えてきます。委ねられているはずの務めをせずに権利を主張し隣国に助けを求める姿です。語る人の立ち位置によって、その言葉は良い善行の勧めや深い慰めにもなれば、忌むべき言動ともなります。

平岸教会と全皓^{チヨンホウ}燮^{ソウ}牧師（北海道・札幌市豊平区）

11日(木)イザヤ書17章7～8、12～14節

私たち人間は、何か出来事が起きないと真の神を求めない存在なのかもしれません。真の神を求める時、神以外のものを求めなくなります。突然の突風が吹き、恐れに満たされても、主の伴いを信じましょう。神以外のものへの恐れが取り払われる時、主は私たちを向こう岸へ導かれます（マルコ4・35～41）。

オープン・ドア・チャペルと李活理^{イハルリ}牧師、ジェームズ・E・アリソン協力牧師（北海道・札幌市豊平区）

12日(金)イザヤ書18章 4 節

主はご自身にふさわしい場所におられ、地上で^{いとな}営まれていることを静かにじっと見ておられる方です。実りに影響するような灼熱の炎や露の雲で人は狼狽^{ろうばい}しても、すべてを熟知しておられる主は平静でおられる。農夫は実ってきた実がさらによりよい実りになるように摘果したり不要な枝葉を切り落とします。

平岡ジョイフルチャペルと三上章牧師（北海道・札幌市清田区）

13日(土)イザヤ書19章19～22、25節

エジプトで主を見上げる人びとへの救済の計画が伝えられています。国の圧政の中であって主に叫ぶ声を主は聞かれ、救われる。主に立ち帰ることによって、癒される。すべての人は神に覚えられており、祝福が用意されている。万軍の主はご自身を求める方に祝福を願われる方です。

西野教会と岩本義博牧師（北海道・札幌市西区）

14日(日)イザヤ書20章

裸になり素足で歩くという姿は、捕虜や敗走者を思い起こさせるものでありました。しかしそのようなイザヤの象徴行為や預言を通して伝えられた神のみ旨に従わず、アッシリアからの解放をエジプトとクシュに期待した人びとがいました。人に頼らず神に頼り、神の導きを祈り求めてまいりましょう。

札幌教会と西本^{しなほ}詩生・石橋大輔各牧師（北海道・札幌市中央区）

15日(月)イザヤ書21章 5 節

バビロンの街の末端がすでに敵の手に落ちている時に、中央では人びとがのんきに宴を開いていたといいます。そのことが5節の背景になかったとしても、戦争の時は食事をしている兵士に突然「武器を用意せよ」との号令がかかります。わたしたちは、神が呼びかけられる時を知りません（マタイ25・1～13）。

札幌新生教会と田中^{みちや}満矢牧師・国内宣教師、三浦^{こうしゅうろう}皇主 郎伝道師、田中博協力牧師（北海道・札幌市北区）

16日(火)イザヤ書22章12～14節

14節の「**お前たちが死ぬまで／この罪は決して赦されることがない**」とは、死ぬまで悔い改めの機会が与えられないほど大きな罪を犯しているという意味です。問題を見て見ぬふりをしてつかの間の喜びに身を委ねるのではなく、毎日が死の連続という意識を持てたらと願います(1コリント15・31～32)。

小樽教会とエイカーズ愛牧師(北海道・小樽市)

17日(水)イザヤ書23章6～9節

歓喜に満ちていた町の凋落^{ちようらく}が伝えられています。我欲に従って己を誇る者の行く末を暗示するかのようです。「**あなたたちの神、主に栄光を帰せよ／闇が襲わぬうちに／足が夕闇の山でつまずかぬうちに。光を望んでも、主はそれを死の陰とし／暗黒に変えられる**」(エレミヤ13・16)。

帯広教会と川内裕子・川内活也各牧師(北海道・帯広市)

18日(木)イザヤ書24章

24章から27章は「イザヤ黙示録」と呼ばれます。21節の「**天の軍勢**」は、異教的な礼拝の対象とされた天の万象を指していると思われます。万軍の主が王となり、その前には月も太陽もその輝きを失う。深い悲しみに沈められ、真の王を待望する人びとの胸中を思います。

釧路教会と舩田栄一牧師、マシュー・チン・メイ・マン、ダイアナ・ウオン・サン・サン各宣教師(北海道・釧路市)

19日(金)イザヤ書25章6～9節

主への服従のみが救済へと繋がることによって、イスラエルと諸国民を隔てる境界は意味を失います。すべての諸民族が、神の山の上で行われる祝宴に招かれる。耐え難い^{ぬぐ}痛みを通り抜けてきた人たちにとって、主はその人たちの涙を拭われる方。待望された救い主を喜ぶ人びとの姿があります。

旭川東光教会と藤原直之代表代務者(北海道・旭川市)

20日(土)イザヤ書26章7～19節

26章が失意のうちに命を奪われた人たちのことばのように思うのはわたしだけでしょうか。神の義は弱く小さくされている人たちが守られるために行われます。たとえ人知れず命を奪われたとしても、神はその人の嘆きを受け止めてくださる。平和を希求し主に祈る姿は、人びとを神に従うことへと導きます。

旭川教会と田森茂基牧師（北海道・旭川市）

21日(日)イザヤ書27章1～6節

5章の1節から7節と同様、ぶどう畑の歌を通して神の姿とみこころを伝えています。具体と抽象を行き来し、普段の生活での経験とそこに見出される教訓によって神のみこころを求める姿勢は、今の私たちにも求められています。神のみこころは身近な生活の中に、日々の聖書のみことばに隠されています。

那覇新都心教会と岡田有右・岡田富美子各協力牧師（沖縄・那覇市）

22日(月)イザヤ書28章23～29節

定められた時に畑を耕し、作物の種類に応じて種を蒔いたり植える。収穫した穀物は適切な方法と力で脱穀される。教会や人生の歩みにおいても、その時ごとに適切な取り組みや歩みがあるのではないのでしょうか。今行うべきことやこれから取り組むべきことは何でしょうか。

西原新生教会と柏本隆宏協力牧師（沖縄・中頭郡西原町）

23日(火)イザヤ書29章9～14、17～24節

パウロが引用したイザヤ書6章の頑迷預言（使徒28・23～28）が思い起こされます。聖書のことばを、救いや幸いだけでなく、諭しや戒めの箇所もバランスよくいただいてゆきたいと願います。「**主を畏れることは知恵の初め**」（箴言1・7）であります。

国分教会とマウマウタン牧師、テモテ・ボード協力宣教師（鹿児島・霧島市）

24日(水)イザヤ書30章18～26節

その叫びは聞かれ、恵みをもって答えられる。主を仰ぐ者は背後から確かな道へと導かれる。それまで頼みとしていた像は断念されるところか全く不要となる。恵みの雨が注がれ豊かに実る。民の破れを包みこみ、その傷を癒す。主を待ち望む人びとに幸いがありますように。

鹿児島教会と田淵亮牧師（鹿児島・鹿児島市）

25日(木)イザヤ書31章 4 節

「^{くだ}降って」の語には他に「下りる」「倒れる」「沈む」などの意味合いがあります。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに^{こしつ}固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました」（フィリピ2・6～7）。

伊集院教会と馬^ま渡^{わたり}健太郎牧師、麦^{みつぎ}野^ぎ賦協力牧師（鹿児島・日置市）

26日(金)イザヤ書32章 5 ～ 8 節

愚かな者やならず者と高貴な者との対比が示されています。高貴な人とは、客人や友、貧しい者たちの生活のために振り分け、気前よく与える者を指しています（箴言19・6）。真の王の到来によって矛盾に満ちた倒錯した時代が過ぎ去り、人びとを神のみこころへと進ませます（1～4節）。

枕崎伝道所と馬渡健太郎牧師、麦野賦協力牧師（鹿児島・枕崎市）

27日(土)イザヤ書33章15～16節

聖所へ入ることを熱心に願う人たちへの答えが伝えられています。詩編24編では、その答えのような人こそが「主を求め人」「御顔を尋ね求める人」とされ来るべき王を迎えよ、との呼びかけがなされています。「主は正しくいまし、恵みの業を愛し／御顔を心のまっすぐな人に向けてくださる」（詩編11・7）。

インドネシア伝道と野口日宇満宣教師のために

28日(日)イザヤ書34章16節

エドムへの審判が語られています。神による惨劇^{さんげき}の数々。しかしこれは、そのようなことが二度とあってはならないという警告、人間がそのようなことを決して行ってはならないという非常に重い戒めではないかと思うのです。キリストの十字架は1度きり。繰り返されてはならないのです。

国際ミッション・ボランティアの働きのために（佐々木和之氏・ルワンダ）

29日(月)イザヤ書35章

長い年月の圧政で弱められた人たちの労苦を、主はすべてご存知です。練り清められたその信仰は、神を見上げて歩む人びとの行く道を照らすものとなります。「**また、自分の足のために、まっすぐな道を造りなさい。不自由な足が道を踏み外すことなく、むしろ癒やされるためです**」（ヘブライ12・13、聖書協会共同訳）。

シンガポール国際日本語教会（I J C S）のために

30日(火)イザヤ書36章21節

ラブ・シャケはエルサレムの民に対してアッシリアに従うように語りかけますが、民らはヒゼキヤ王から「（彼に）**答えてはならない**」と戒められていたためひと言も答え^{こたへ}ませんでした。ヒゼキヤ王、そして主を引き下げる発言に民らは悶々^{もんもん}としたことでしょう。王と主への忠誠によって争いは避けられました。

アジアバプテスト女性連合（ABWU）のために

31日(水)イザヤ書37章14～15節

ヒゼキヤ王は事の次第を聞き、家臣たちをイザヤのもとへ遣わし、助言と祈りを請います。再度の脅しを受けた際も、ヒゼキヤ王は主の前に祈り求めます。主の前にあらわにされていないものは何一つありません。主の前に私たちの思いを広げ、祈り求めましょう。2026年の歩みが祈りの年でありますように。

E I WAN（福島移住女性支援ネットワーク）のために